

「あだしののつゆきゆるときなく」ぼうせんちゅうしやくぷりんと

次の()内の挿入注釈を参考に、**ノートに書写した本文に傍線注釈をしない**。(仮名書きを常用漢字に直すこと。)()内は傍線注釈では挿入として記すことになる。
 ≪ ≫には自分で考えた挿入句を入れること。

ゴシックの語を文法的に説明しなさい。

担当に当たった人は、**授業開始前に黒板に傍線注釈を書き、下段にある問に答えられるよう**に準備しておくこと。

①あだし野の露(はきえやすいが、そのように)消ゆるときなく、
 鳥部山(にたつかそう)の煙(はきえさつてしまうが、そのように)
 立ち去らでのみ、(このよのかぎりまで)住み果つるならひならば、
 いかにもものあはれもなから**ん**。

②(この)世は定めなきこそ、いみじけれ。

③命あるものを見るに、人ばかり(いのちが)久しきはなし。

④かげろふの(あさにうまれて)夕べを待ち(〓たずにしに)、夏の蟬の春秋を知らぬ(〓ないでしんでしまうというようなたんめいないきもののれい)もあるぞかし。

⑤つくづくと一年を暮らすほどだにも、こよなうのどけしや。

⑥(なんねんいきても)飽かず、(いのちを)惜しと思はば、千年を過ぐすとも、一夜の夢の心地こそせめ。

⑦住み果てぬ世に≪ ≫みにくき姿を待ちえて何かはせん。

⑧命長ければ辱多し。

⑨長くとも四十に足らぬほどにて死な**ん**こそ、めやすかるべけれ。

⑩そのほど過ぎぬれば、かたちを恥づる心もなく、人に出でまじらは**ん**ことを思ひ、

⑪夕べの陽(のようよめいくばくもないみ)に子孫を愛して、さかゆく末を見**ん**までの命をあらまし、

⑫ひたすら世(のめいよやりえき)をむさぼる心のみ深く、ものあはれも知らずなりゆくな**ん**、あさましき。

●作者は⑤・⑥の文のどちらのとらえ方がいいといっているのか？

②作者が主張しているこの世のすばらしさとは何か？

③人でない生き物はどれほど命が短いと言っているか。

④「ぞかし」を文法的に説明しなさい。

⑦≪ ≫……作者はどうなると「みにくき姿」になると言っているのか？

⑩「そのほど」とはどのほどか？

⑪「あらまし」を文法的に説明しなさい。

--

--

●副助詞をピックアップし、訳をまとめなさい。

●係り結びを指摘し、結びの語を文法的に説明しなさい。